

フィリピン共和国レイテ島地すべり

＜上野 宏共・地下まゆみ＞

2006年2月17日、レイテ島セントバーナードで大規模な地すべりが発生し土石流はギンザウゴン村などの集落を覆い隠した。この地すべりによる犠牲者の数は多い。千葉科学大学調査隊は2006年3月下旬にレイテ島内で現地調査を行った。



1. 地すべりによる崩壊地 (ステレオ写真)。標高805mのカンアバグ山の北方東斜面の海拔720mから崩壊が起こった。この付近の地層は新第三紀中新世の火山性複合岩体である。崩壊地はフィリピン断層の延長上に位置している。



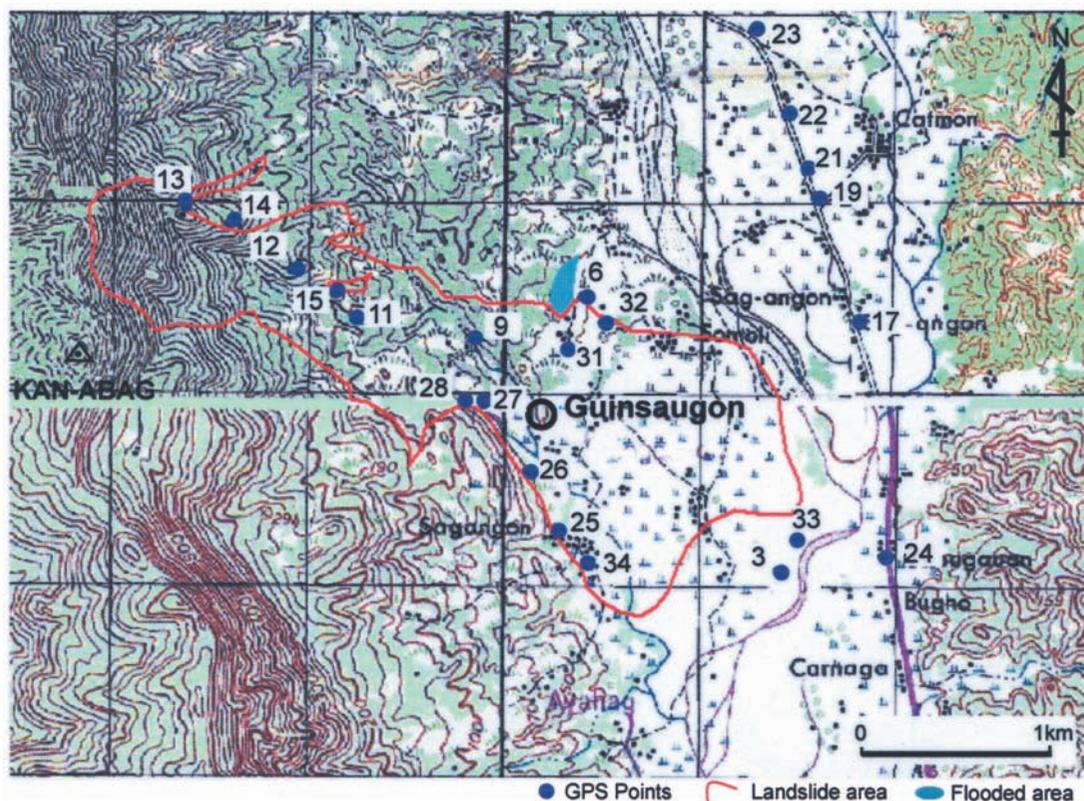
2. 崩壊の最上部。400mm望遠レンズでの頂部の様子で、向かって左側には角閃石デイサイトからなる $N30^{\circ}W$ $55^{\circ}E$ のすべり面。右側は同じ岩石の破断面。右下には2005年12月17日に起きた小規模な地すべりによる崩積土が見える。



3. 海拔170mの崩壊地の北端近く。土石流はヤシ林の先にも回り込んでいる。この地帯はかなり厚い古い地すべり崩積土からなっており、その土壌化した表面にヤシ林が立っている。



4. ギンサウゴン村のあった場所を北方から望む。白旗は村の中心部を示している。旗のポールの長さ2m。この災害での死者は139名、行方不明者980名と報じられている。



5. 地すべり地域の全容。GPS、高度計、崩壊前の航空写真と各所からの直視から決定した。部分的にはNASA提供の衛星画像(ここでは常時雲がかかり全体像は得難い)で修正した。これまで報告されているものの多くは、一つ南側の頂部近くから伸びる谷を崩壊地としている。この図面作成に関しては同行したPasco-Certeza Co. 出口一郎アドバイザーに負う所が多い。

本号41頁からの本文で詳しく触れるが、この地域はこれまで中小規模の地すべりを繰り返していた断層帯に位置し、熱水変質作用によってスメクタイトが生成していた上に、数日前からの大雨が重なり地すべりが発生した。